

5 西 三 河 地 区

〔 岡崎市、碧南市、刈谷市、豊田市、安城市、西尾市、知立市、高浜市、みよし市、幸田町 〕

【地区の概況】

西三河地区は、県土の中央に位置し、矢作川流域に広がる地域です。当地区は、自動車メーカーの本社や研究開発・生産拠点のほか、機械・金属関連や電気・電子機械など多種多様なサプライヤー企業が数多く立地する世界的な自動車産業の拠点であり、全国一である本県の製造品出荷額等の約5割を占め、モノづくり愛知のけん引役を果たしています。

こうした活発な企業活動を背景に、県外から若い男性を中心とした転入が多く、人口増加が続いており、人口構造も若い地区となっています。

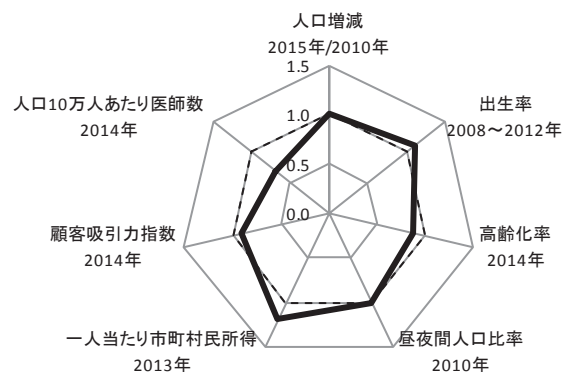
一方、南部地域を中心とする大規模な土地利用型の農業や、東部・北部地域での林業、三河湾における水産業なども盛んに行われています。

また、最先端のモノづくりから瓦産業、醸造業などの産業観光資源をはじめ、岡崎城や山車文楽などの歴史的・文化的資源、農山村や三河湾などの豊かな自然に恵まれた地区でもあります。

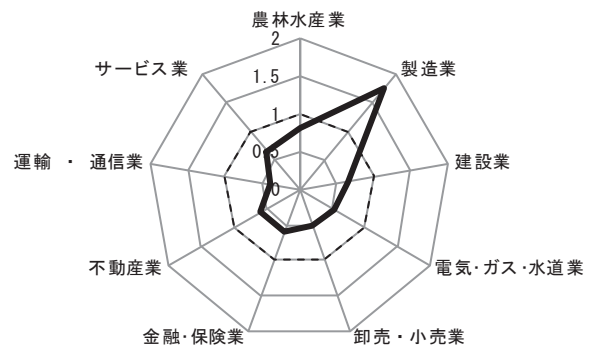


- 人口 1,595,303人 (21.3%)
- 面積 1,758.68k㎡ (34.0%)
- 人口密度 907.1人/㎡

※人口は2015年10月現在、面積は2014年10月現在、
()内は県内シェア



＜域内総生産構成比の全県との比較＞



〔 全県データ（点線）を1として、
この地区の指数を実線で図示 〕

1 人口

西三河地区の2015年の人口は1,595,303人(2010年比101.9%)で、県内シェアは21.3%となっています。

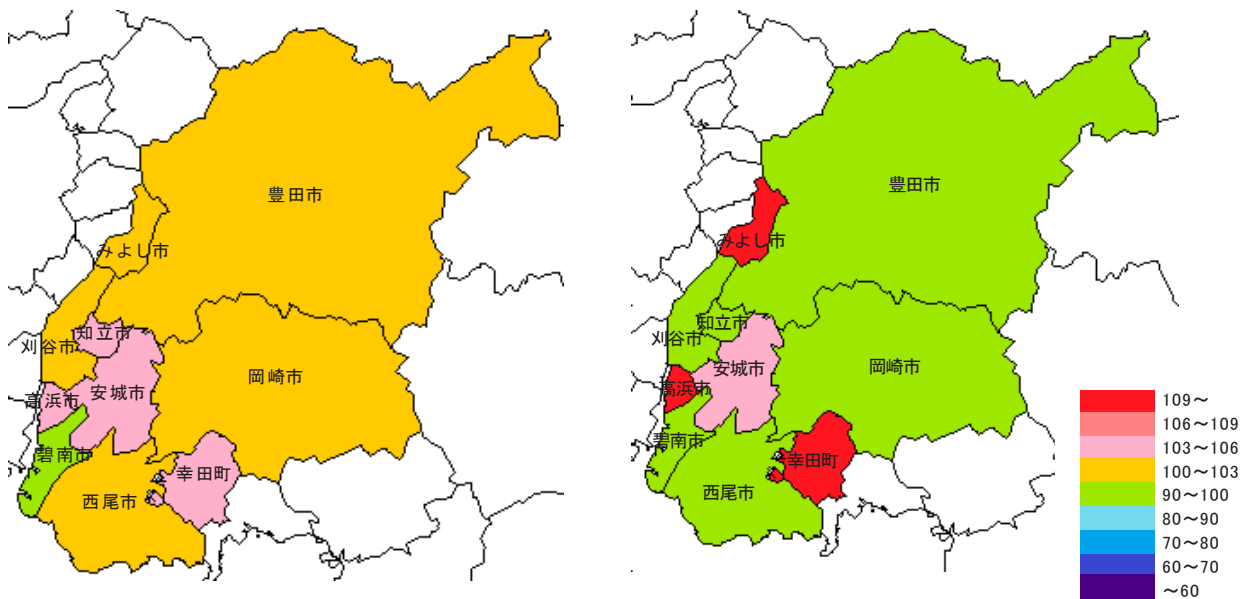
市町別に見ると、高浜市(2010年比105.1%)、幸田町(同年比104.3%)、知立市(同年比103.1%)などで増加率が高くなっています。一方、碧南市(同年比99.1%)では人口が減少しています。

また、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2040年の地区内の人口は1,527,819人(2010年比97.6%)に減少すると見込まれています。減少率が高いのは、西尾市(同年比90.0%)、碧南市(同年比91.2%)などとなっています。また、高齢化率は、2010年比で+12.6ポイントの上昇と、県平均(+12.2ポイント)を上回っており、みよし市(+15.3ポイント)、岡崎市(+13.7ポイント)などで大きな上昇が見込まれています。

■総人口の推移

◇2015年(2010年を100とした比較)

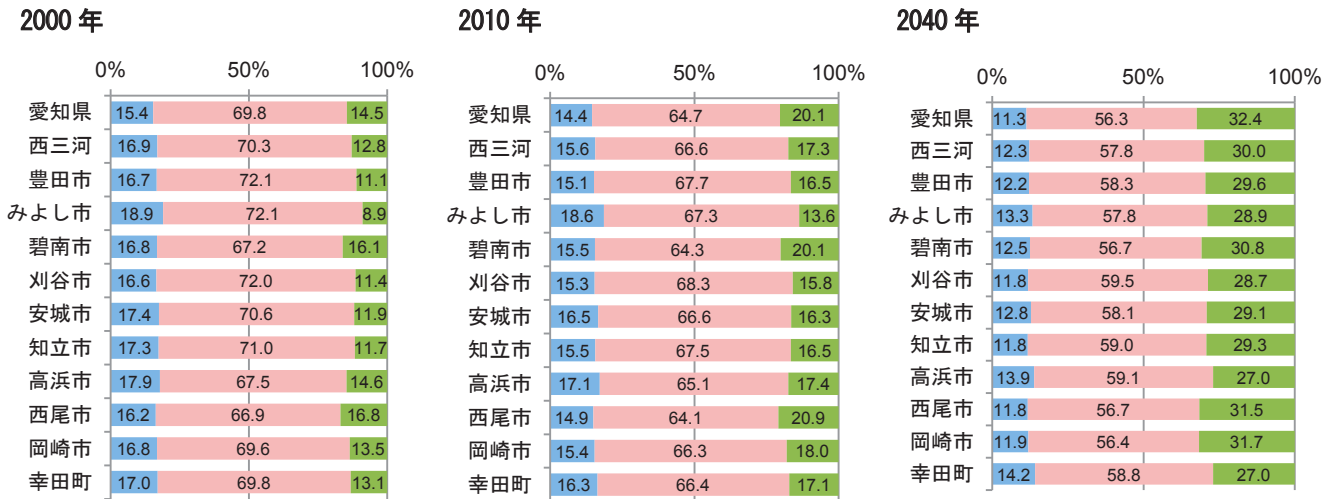
◇2040年(2010年を100とした比較)



	総人口(人)					増減率	
	2000年	2005年	2010年	2015年	2040年	2010年→2015年	2010年→2040年
愛知県	7,043,300	7,254,704	7,410,719	7,484,094	6,855,632	101.0%	92.5%
西三河	1,441,507	1,522,256	1,566,085	1,595,303	1,527,819	101.9%	97.6%
豊田市	395,224	412,141	421,487	422,780	406,258	100.3%	96.4%
みよし市	47,684	56,252	60,098	61,795	66,515	102.8%	110.7%
碧南市	67,814	71,408	72,018	71,362	65,707	99.1%	91.2%
刈谷市	132,054	142,134	145,781	149,810	143,600	102.8%	98.5%
安城市	158,824	170,250	178,691	184,163	185,653	103.1%	103.9%
知立市	62,587	66,085	68,398	70,494	68,148	103.1%	99.6%
高浜市	38,127	41,351	44,027	46,252	48,694	105.1%	110.6%
西尾市	159,788	163,232	165,298	168,045	148,846	101.7%	90.0%
岡崎市	345,997	363,807	372,357	381,031	352,471	102.3%	94.7%
幸田町	33,408	35,596	37,930	39,571	41,927	104.3%	110.5%

出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」

■年齢三区分別人口割合



出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」

■年少 ■生産年齢 ■老年

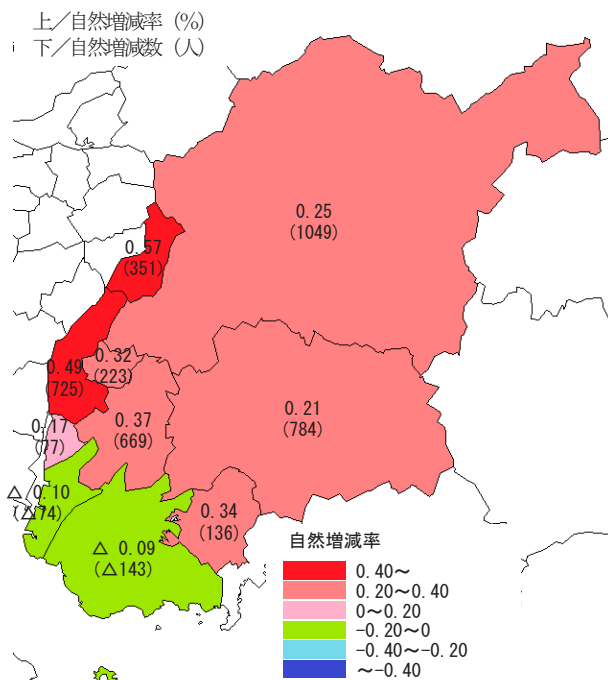
2 自然増減

西三河地区の2014年の自然増減率^{*}は0.24%の増加で、3,797人の自然増となっています。自然増減率を市町別に見ると、みよし市(0.57%)、刈谷市(0.49%)などでプラスが大きくなっている一方、碧南市(-0.10%)、西尾市(-0.09%)でマイナスとなっています。

また、合計特殊出生率(2008年~2012年)を市町別に見ると、地区内全市町で県平均を上回っており、みよし市(1.81)、高浜市(1.80)などで高くなっています。

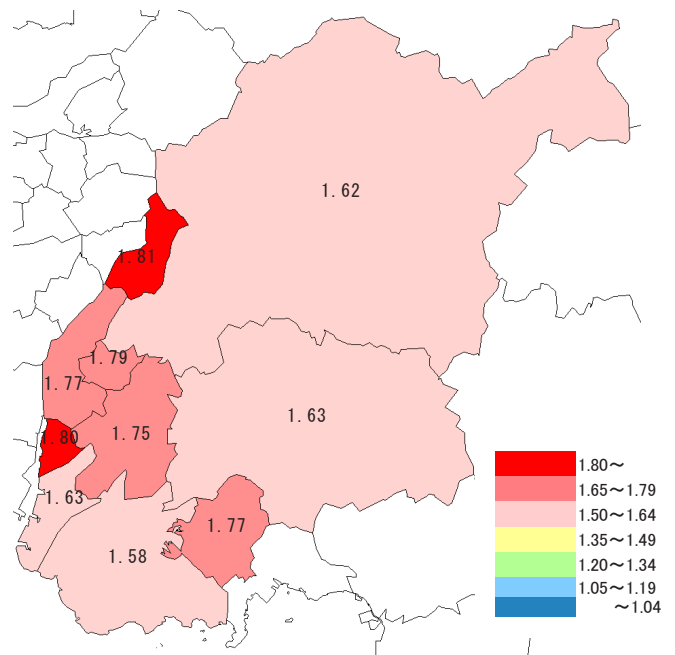
^{*}自然増減率=自然増減数/総人口×100

■自然増減の状況(2014年)



出典：厚生労働省「人口動態統計」、愛知県「あいちの人口」から愛知県政策企画局作成

■合計特殊出生率(2008年~2012年)



出典：厚生労働省「2008年~2012年人口動態保健所・市区町村別統計の概況」

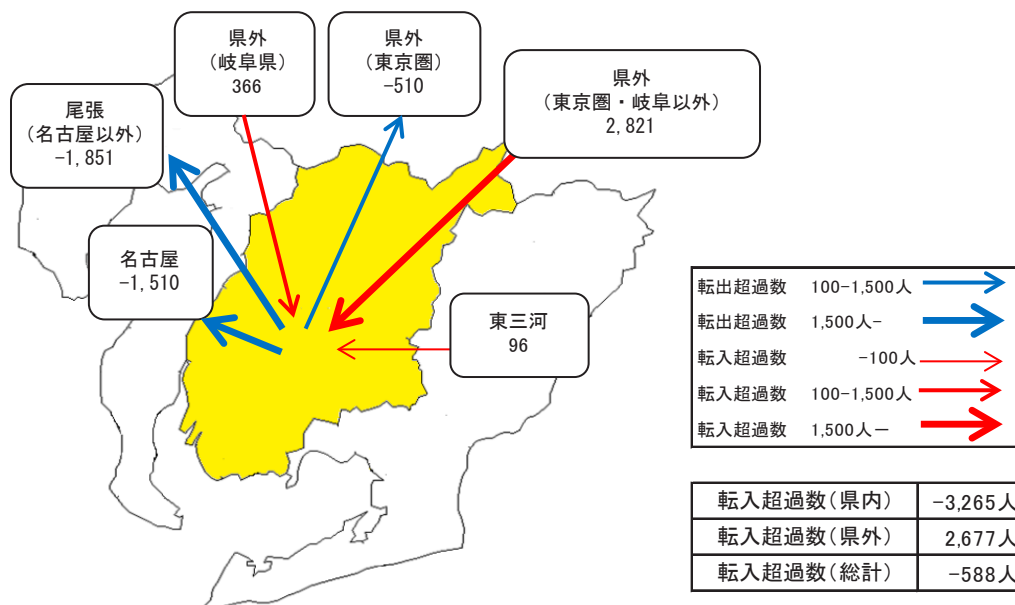
3 転出入の状況

西三河地区の2014年の転出入は、588人の転出超過となっています。尾張(名古屋以外)、名古屋、東京圏に対して転出超過となっている一方で、岐阜県や東三河などに対して転入超過となっています。

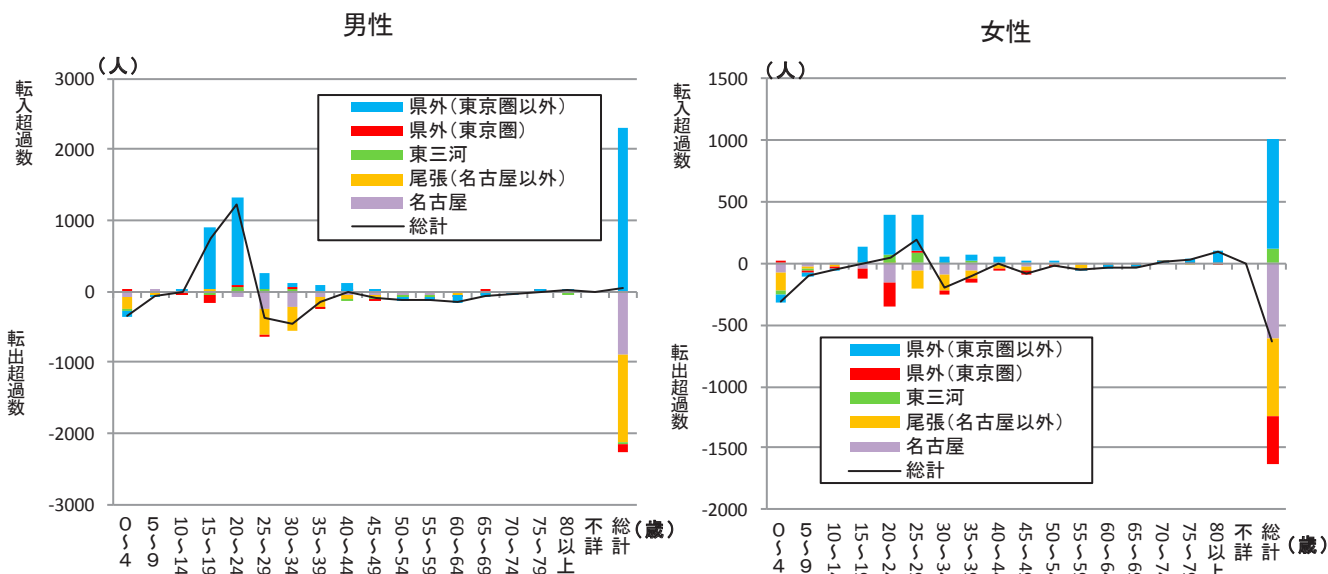
男女別に見ると、男性は15～24歳では大幅な転入超過ですが、25歳以降の年齢区分では転出超過となっています。女性は、転出入が拮抗していますが、30～39歳では転出超過となっています。男性については、県外(東京圏以外)からの転入が多くなっていますが、女性は尾張への転出が多くなっています。

■転出入の状況（2014年）

＜転出入の状況＞



＜5歳階級別純移動数＞



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

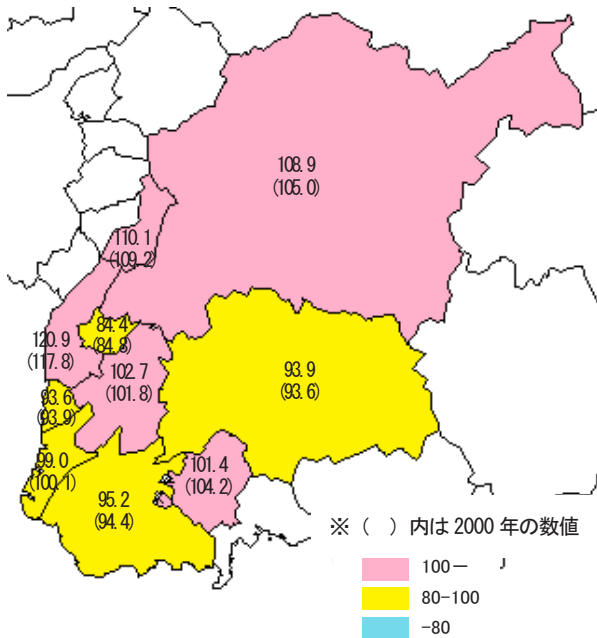
4 昼夜間人口比率、就従比、通学比

西三河地区の2010年の昼夜間人口比率^{※1}は102.2（2000年比+1.6ポイント）、就従比^{※2}は1.05（同年比+0.03ポイント）、通学比^{※3}は0.92（同年比-0.04ポイント）となっています。製造業が集積する当地区は、通勤面での求心力が高い地域となっています。

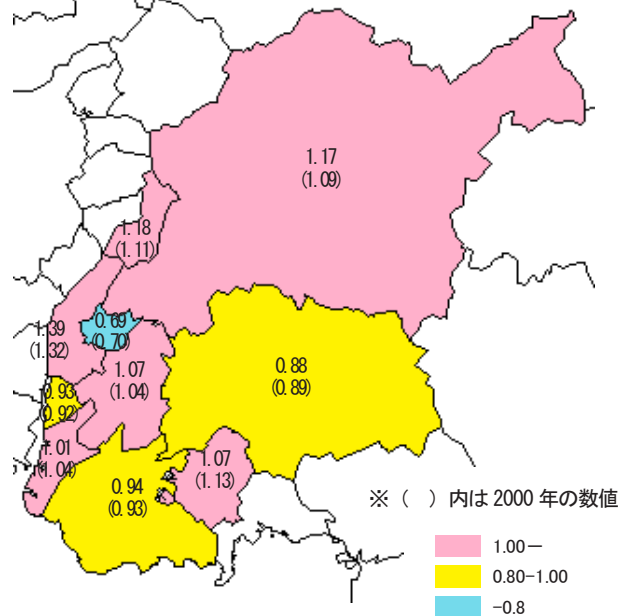
市町別に見ると、昼夜間人口比率は、刈谷市（120.9）、みよし市（110.1）、豊田市（108.9）などで100を超えています。就従比は、刈谷市（1.39）、みよし市（1.18）などで高く、通学比は、みよし市（1.23）、知立市（1.09）などで高くなっています。

- ※1 昼夜間人口比率＝昼間人口／夜間人口（常住人口）×100。100を下回ると、通勤・通学人口の流出超過を示します。
- ※2 就従比＝従業地就業者数／常住地就業者数。就従比が1を下回ると、就業者の他地域への流出を示します。
- ※3 通学比＝就学地通学者数／常住地通学者数。通学比が1を下回ると、通学者の他地域への流出を示します。

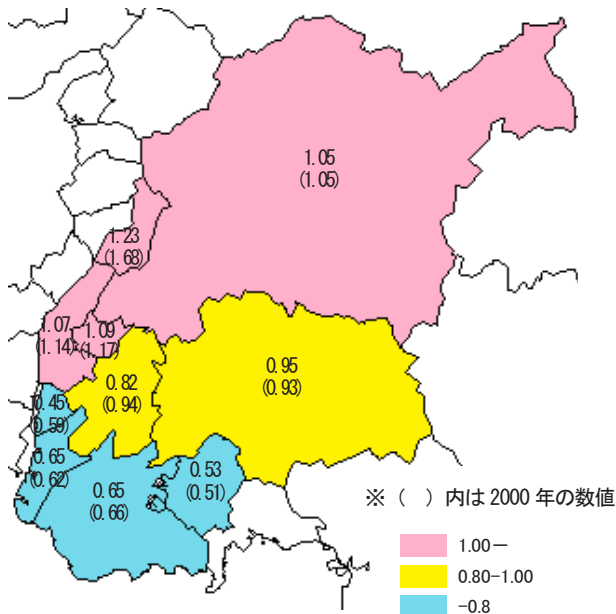
■昼夜間人口比率（2010年）



■就従比（2010年）



■通学比（2010年）



出典：総務省「国勢調査」

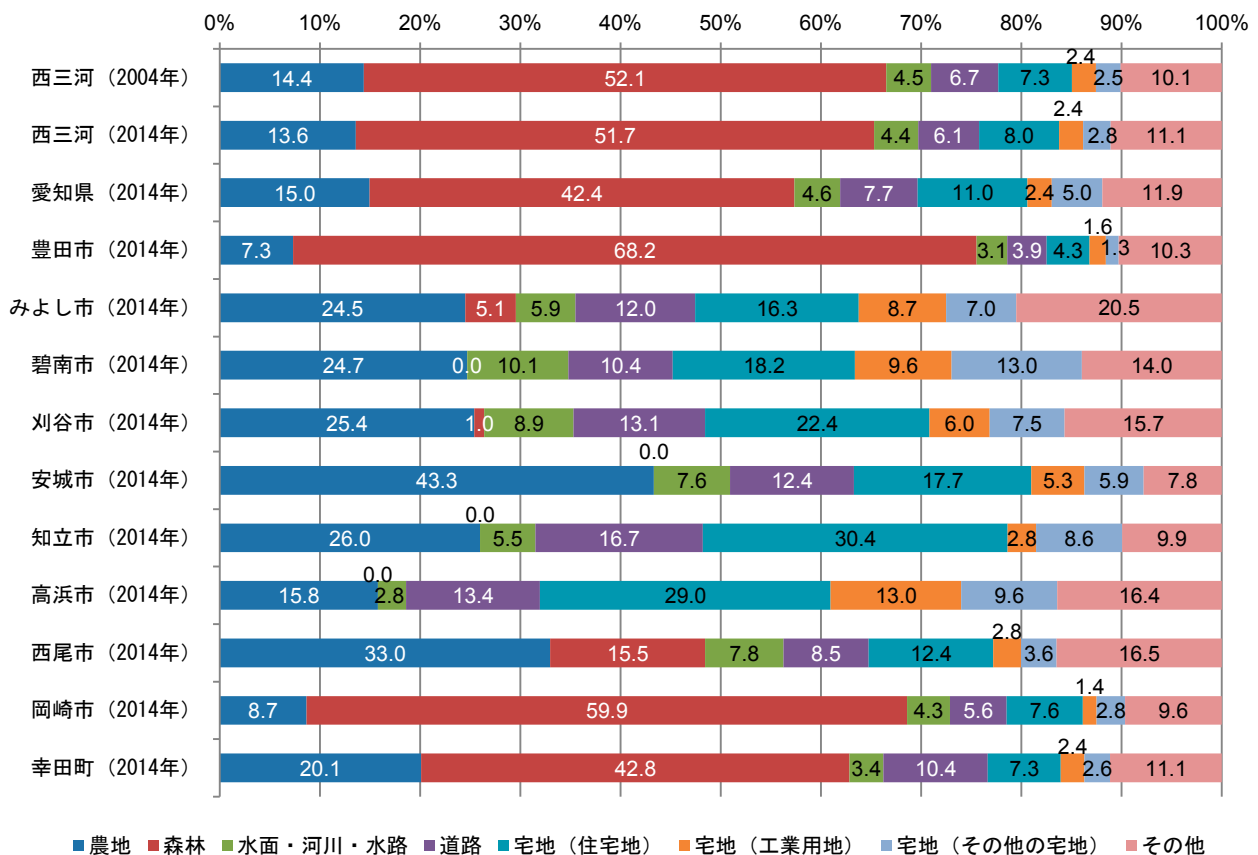
5 土地利用

西三河地区の2014年の地目別土地利用状況を見ると、森林51.7%、農地13.6%、宅地13.1%などとなっています。宅地の内訳は、住宅地が8.0%、工業用地が2.4%、その他の宅地（商業・業務用地など）が2.8%となっています。

県全体と比較すると、森林（+9.3ポイント）の割合が高くなっています。また、2004年と比較すると、農地の割合が減少（-0.8ポイント）する一方、住宅地（+0.6ポイント）、その他の宅地（+0.3ポイント）の割合が増加しています。

市町別に見ると、豊田市、岡崎市は、森林の割合が50%を超え、安城市と西尾市は、農地の割合がそれぞれ43.3%、33.0%と高くなっています。また、知立市は、住宅地の割合が30.4%と高くなっています。

■土地利用の現況



※端数処理の関係上、合計が100にならない場合がある。また、上記の説明と差引の数値が合わない場合がある。

出典：愛知県「土地に関する統計年報」

※宅地：住宅地、工業用地、その他の宅地の合計

6 産業

(1) 就業構造

西三河地区の2010年の就業構造を見ると、第1次産業従事者比率が2.5%（県：2.3%）、第2次産業従事者比率が47.6%（県：33.3%）、第3次産業従事者比率が49.9%（県：64.4%）であり、自動車関連産業を中心とした第2次産業に特化した就業構造を有しています。2000

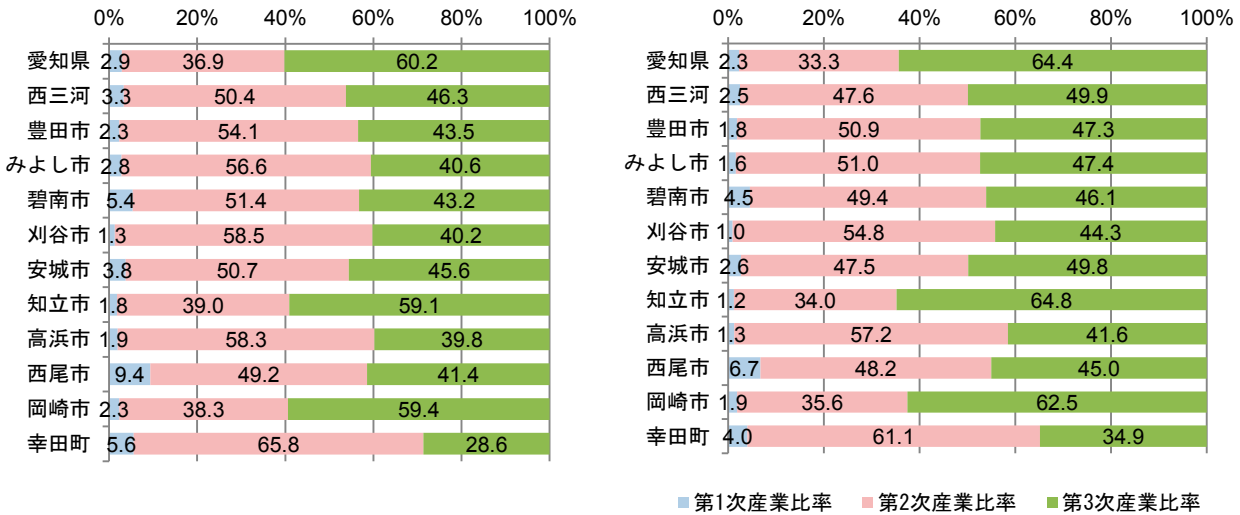
年と比較すると、第1次産業従事者比率（-0.9ポイント）、第2次産業従事者比率（-2.8ポイント）の割合が低下し、第3次産業従事者比率（+3.7ポイント）が増加しています。

市町別に見ると、第2次産業従事者比率が高い市町が多くなっていますが、2000年と比較すると、地区内全市町で第2次産業従事者比率が低下しており、第3次産業へのシフトが進んでいます。

■産業別従業者割合

2000年

2010年



出典：総務省「国勢調査」

(2) 農林水産業

2010年の農産物販売金額は481億円であり、県内シェアは17.7%となっています。農業部門別では、花き・花木108億円、施設野菜69億円、稲作69億円などが多くなっています。当地区は、矢作川を水源とする農業用水に恵まれ、ほ場整備による生産性の高い農業が営まれています。水田では、大規模経営による稲作や麦・大豆の栽培が行われており、稲作（県内シェア：38.4%）、麦類等（県内シェア：84.0%）、雑穀・いも類・豆類（県内シェア：58.5%）などで高い県内シェアを誇っています。花きは、カーネーション、洋らんなどが栽培されています。また、本県が日本一の産地となっているいちじく（安城市、碧南市）のほか、なし・もも（豊田市）、筆柿（幸田町）などの果樹、てん茶（西尾市）などの生産も盛んです。加えて、西尾市（旧一色町）を中心にあさり漁業やうなぎ養殖が大規模に営まれ、全国有数の産地となっています。

■農産物販売金額（2010年）

市町	販売金額	内訳（上位3位）		
		花き・花木	施設野菜	稲作
西三河	481.3	107.9	69.3	68.8
岡崎市	56.3	12.8	9.8	9.1
碧南市	54.3	19.1	11.8	10.2
刈谷市	11.0	3.4	2.0	1.5
豊田市	67.6	15.0	9.8	7.2
安城市	73.9	16.0	14.4	13.7

市町	販売金額	内訳（上位3位）		
		花き・花木	施設野菜	酪農
西尾市	174.9	57.5	26.1	16.5
知立市	3.0	1.4	0.6	分類不能
高浜市	5.8	4.4	0.9	花き・花木
みよし市	10.8	4.2	1.3	分類不能
幸田町	23.7	5.5	4.0	3.3

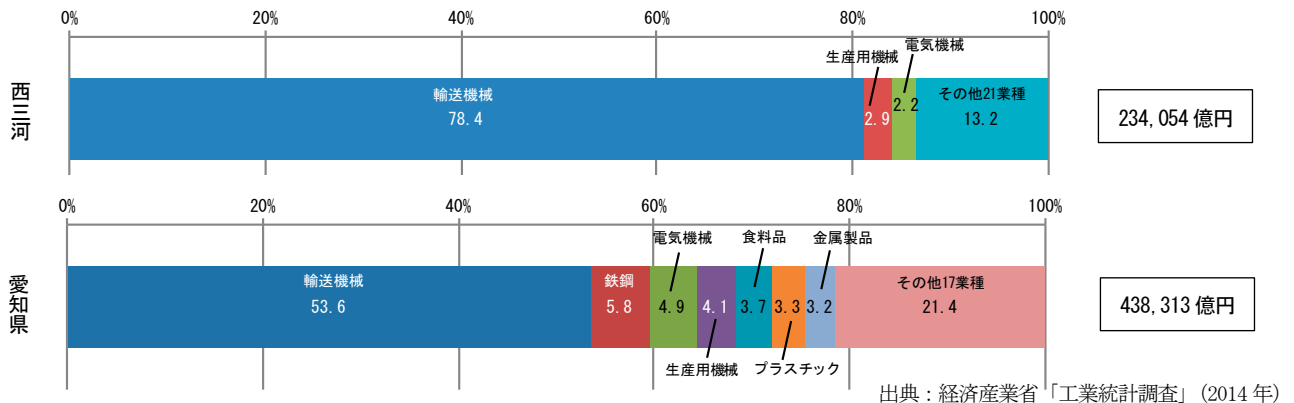
出典：地域経済分析システム（農林水産省「農林業センサス」再編加工）

(3) 製造業

西三河地区の2014年の製造品出荷額等は23兆4,054億円であり、県内シェアは53.4%となっています。産業中分類別の構成比を見ると、輸送機械が78.4%、生産用機械が2.9%、電気機械が2.2%などとなっています。輸送機械については、豊田市が製造品出荷額等で全国第1位、刈谷市が第4位、安城市が第5位（2013年）と、圧倒的な集積を誇っています。

市町別に見ると、豊田市が13兆847億円で最も多く、次いで、安城市が1兆7,996億円、岡崎市が1兆7,558億円となっています。

■製造品出荷額等の産業中分類別構成比（2014年）



■製造品出荷額等（輸送用機械器具製造業）の全国上位10市区町村（2013年）

市区町村	輸送用機械器具製造業(億円)	全国シェア
1 豊田市	118,509	20.4%
2 田原市	18,344	3.2%
3 太田市	17,031	2.9%
4 刈谷市	11,397	2.0%
5 安城市	11,069	1.9%
6 広島市南区	10,899	1.9%
7 鈴鹿市	10,693	1.8%
8 湖西市	10,617	1.8%
9 西尾市	10,308	1.8%
10 岡崎市	9,346	1.6%

西三河	182,437	31.3%
-----	---------	-------

出典：経済産業省「工業統計調査」（2013年）

■市町別製造品出荷額等（2014年）

	製造品出荷額等(億円)	従業者数(人)	事業所数(事業所)
愛知県	438,313	795,496	16,795
西三河	234,054	327,499	3,983
岡崎市	17,558	37,914	730
碧南市	8,276	15,517	360
刈谷市	15,801	48,349	375
豊田市	130,847	105,996	860
安城市	17,996	41,635	490
西尾市	13,481	34,111	607
知立市	1,185	4,866	130
高浜市	5,124	10,872	162
みよし市	8,759	17,032	178
幸田町	15,028	11,207	91

出典：経済産業省「工業統計調査」（2014年）

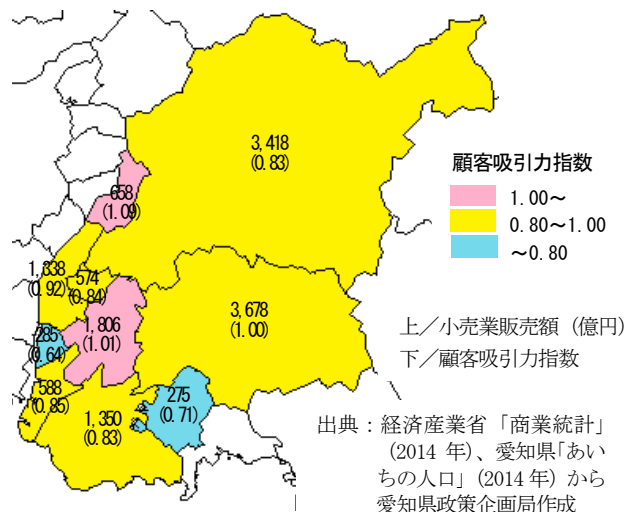
(4) 商業

西三河地区の2014年の小売業販売額は1兆3,971億円であり、県内シェアは19.1%となっています。また、顧客吸引力指数*は0.90となっています。

市町別に見ると、小売業販売額は、岡崎市が3,678億円、次いで豊田市が3,418億円と高くなっています。また、顧客吸引力指数は、みよし市(1.09)、安城市(1.01)が1.00を超えています。

*顧客吸引力指数：各市町村の人口1人あたりの小売業販売額を県の1人あたりの小売業販売額で除したものの、指数が1.00以上の場合は、買物客を外部から引き付け、1.00未満の場合は、外部に流出していると思われることができます。

■小売業販売額（2014年）

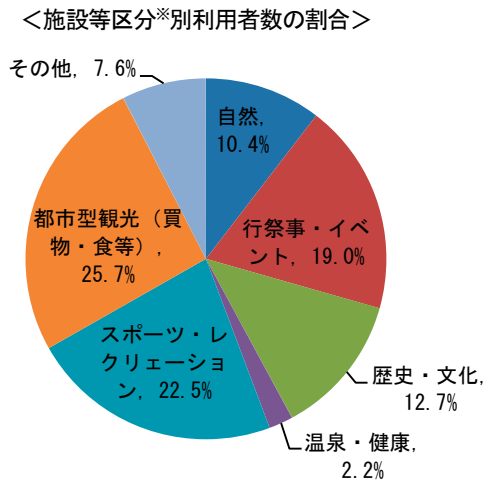


7 観光

西三河地区の2014年の観光資源利用者数を区分別に見ると、「都市型観光(買物・食等)」が25.7%で最も割合が多く、次いで「スポーツ・レクリエーション」が22.5%、「行祭事・イベント」が19.0%となっています。利用者数上位の観光資源は、刈谷ハイウェイオアシス(年間8,252,000人;刈谷市)、豊田スタジアム(年間1,690,277人;豊田市)、道の駅藤川宿(年間1,455,542人;岡崎市)などとなっています。

また、当地区は、岡崎城や知立の山車文楽とからくり、足助の町並みなどの歴史・文化観光資源、三州瓦や白醤油・八丁味噌などの地場産業を生かした産業観光資源、香嵐溪や佐久島などの豊かな自然など、多様な観光資源を有しています。

■観光レクリエーション利用者統計(2014年)



※観光庁「観光入込客統計に関する共通基準」と同様の区分

＜観光資源(利用者数上位10位)＞

	観光資源名	市町村	利用者数(人)
1	刈谷ハイウェイオアシス	刈谷市	8,252,000
2	豊田スタジアム	豊田市	1,690,277
3	道の駅藤川宿	岡崎市	1,455,542
4	刈谷市交通児童遊園	刈谷市	1,342,632
5	鞍ヶ池公園	豊田市	1,201,700
6	三河三弘法・遍照院	知立市	1,040,000
7	安城七夕まつり	安城市	1,020,000
8	あおいパーク	碧南市	1,018,613
9	明石公園	碧南市	871,344
10	西尾市憩の農園	西尾市	870,123

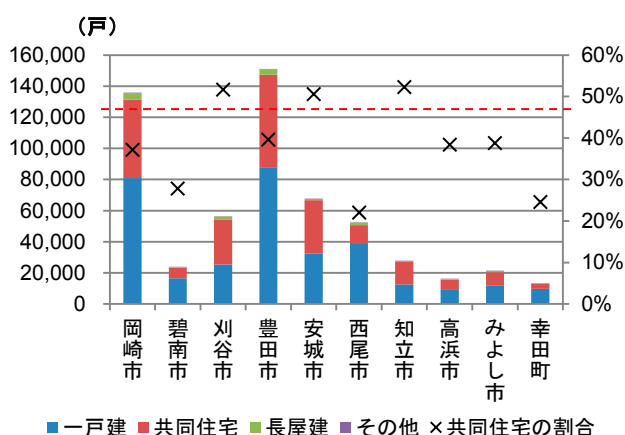
出典：愛知県「観光レクリエーション利用者統計」(2014年)

8 住宅

西三河地区の2013年の住宅総数を市町別に見ると、豊田市が150,990戸で最も多く、次いで岡崎市が135,870戸、安城市が67,670戸となっています。また、共同住宅の住宅総数に占める割合は、知立市(52.3%)、刈谷市(51.7%)などで県平均(46.3%)を上回っています。

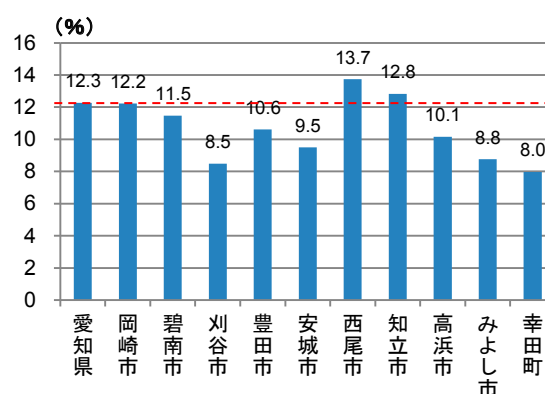
空き家率を見ると、西尾市(13.7%)、知立市(12.8%)で県平均(12.3%)を上回っています。

■住宅総数（2013年）



※赤線は共同住宅の割合の県平均（46.3%）

■空き家率（2013年）



※赤線は空き家率の県平均（12.3%）

出典：総務省「住宅・土地統計調査」（2013年）

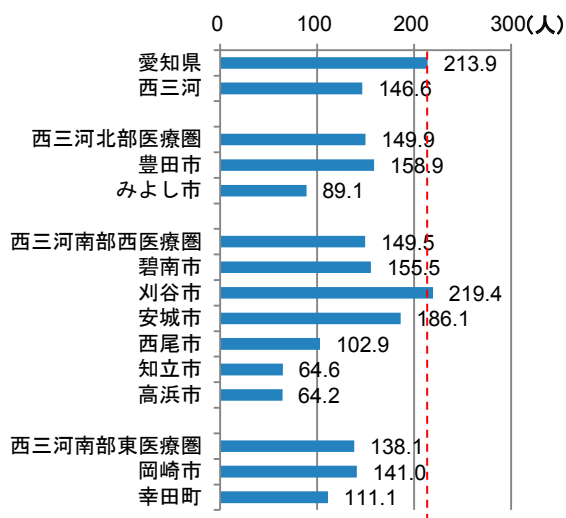
※住宅・土地統計調査では、人口15,000人未満の町・村の調査結果が公表されていない。

9 医療・福祉

西三河地区の2014年の人口10万人当たりの医師数は146.6人であり、県平均（213.9人）を下回っています。二次医療圏別に見ると、西三河北部医療圏149.9人、西三河南部西医療圏149.5人、西三河南部東医療圏138.1人となっています。

また、本県が2015年に実施した調査によると、医師不足による診療制限をしている病院の割合は16.4%となっています。二次医療圏別に見ると西三河北部医療圏は16.7%、西三河南部西医療圏は22.7%、西三河南部東医療圏は6.7%となっており、西三河南部西医療圏では県平均（22.4%）をわずかに上回っています。2007年の状況と比較すると、西三河北部医療圏は1.7ポイント上昇、西三河南部西医療圏は1.1ポイント低下、西三河南部東医療圏は10.9ポイント低下となっています。

■人口10万人当たり医師数（2014年）



※赤線は県平均（213.9人/10万人）

出典：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」（2014年）、愛知県「あいちの人口」（2014年）から愛知県政策企画局作成

■医師不足を原因とした診療制限を行っている県内病院の割合

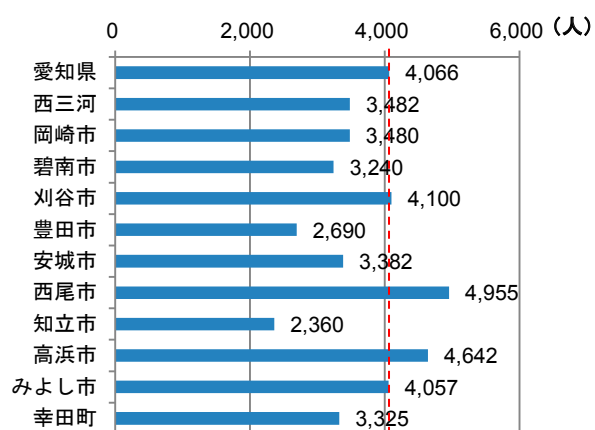
	2007年6月末			2015年6月末		
	病院数	診療制限している病院数	病院数に対する割合	病院数	診療制限している病院数	病院数に対する割合
愛知県	338	62	18.3%	322	72	22.4%
西三河	58	11	19.0%	55	9	16.4%
西三河北部医療圏	20	3	15.0%	18	3	16.7%
西三河南部西医療圏	21	5	23.8%	22	5	22.7%
西三河南部東医療圏	17	3	17.6%	15	1	6.7%

出典：愛知県「県内病院における医師不足の影響に関する調査結果」

高齢者向け施設について、2014年の65歳以上人口10万人当たりの定員数は3,482人と、県平均（4,066人）を下回っています。市町別に見ると、西尾市、高浜市が県平均を大きく上回る一方、知立市、豊田市では大きく下回っています。

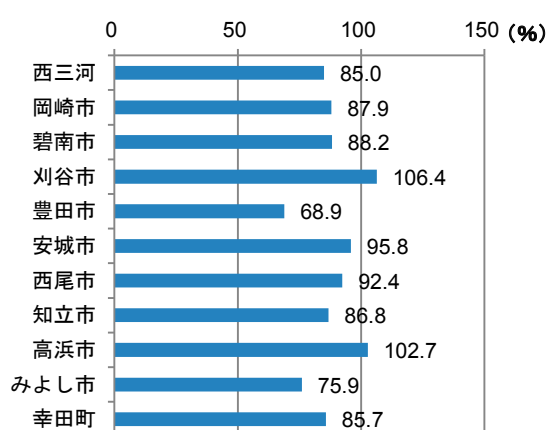
また、2014年の保育所の定員充足率（利用児童数÷定員）は85.0%であり、市町別に見ると、刈谷市（106.4%）、高浜市（102.7%）では充足率が100%を上回っています。

■高齢者向け施設定員数（65歳以上人口10万人当たり）（2014年）



※赤線は県平均（4,066人/10万人）

■保育所充足率（2014年）



出典：厚生労働省「社会福祉施設等調査」（2014年）、「介護サービス施設・事業所調査」（2014年）、愛知県「あいちの人口」（2014年）から愛知県政策企画局作成

※高齢者向け施設定員数：養護老人ホーム（一般）、（盲）、軽費老人ホーム（A型）、（B型）、（ケアハウス）、有料老人ホーム、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設の定員数

【西三河地区における県の主な取組】

当地区は、自動車産業を中心とする世界的なモノづくり産業の拠点であるとともに、産業観光施設や歴史文化を有しており、県としては、モノづくりの中核性を高めるための研究開発機能の集積や、地域の資源を生かした魅力の創造・発信に取り組んでいます。一方、山間部や離島を抱える地域でもあり、暮らしを支える環境整備や地域資源を生かした魅力発信など、山間部や離島地域の振興にも取り組んでいます。

（モノづくりの中核性の強化）

トヨタ自動車(株)が整備する研究開発施設及びテストコースの用地として造成を進めている豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業については、2012年度から工事に着手しており、2020年度に造成工事が完了する予定です。その後、トヨタ自動車(株)が行う施設建設は2025年度に完了する予定となっています。

また、「あいち産業科学技術総合センター」や「あいちシンクロトロン光センター」からなる「知の拠点あいち」では、企業の製品開発や生産現場の課題解決のために、高度な計測分析機器や最先端のシンクロトロン光利用施設を用いて試験・分析などを行っているほか、産学行政の連携による重点研究プロジェクトを実施しています。2015年度には、中部

国際空港に隣接する中部臨空都市から新エネルギー実証研究エリアを移転し、引き続き、実証研究フィールドを企業等に提供するとともに、拠点内の研究開発や分析評価支援機能と一体的に運用することにより、取組の更なる強化を図っていくこととしています。

更に、航空宇宙産業については、「アジアNo.1 航空宇宙産業クラスター形成特区」の支援措置の活用とともに、岡崎市、西尾市において、各種法令に基づく条例により、工場立地に係る緑地規制の緩和措置を図るなどの取組が行われており、更なる企業集積や航空機生産機能の拡大・強化に取り組んでいます。



豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業の推進
（東側イメージパース）



知の拠点あいちにおける研究開発の推進
（あいちシンクロトロン光センター）

（農林水産業の振興）

当地区では、南部地域を中心とした大規模な土地利用型の農業や山間部における林業、三河湾における水産業が展開されており、新技術の導入や農地集積などを通じた生産性の向上を図るとともに、国営総合農地防災事業矢作川総合第二期地区などの基盤整備を進めています。

また、地域団体商標に登録されている「一色産うなぎ」や「西尾の抹茶」をはじめ、特産品のブランド化を進めるとともに、6次産業化や農商工連携の取組を支援し、付加価値の向上を図っています。



内水面漁業研究所における研究開発の推進



特産品のブランド化
（左：一色産うなぎ／右：西尾の抹茶）

（地域の魅力の創造・発信）

自動車を中心とするモノづくり産業や、醸造業、窯業といった地場産業、和紙などの郷土工芸品等を生かした産業観光や、徳川家や三河武士ゆかりの史跡などを生かした武将観

光を推進しています。また、山車文楽や三河万歳、足助の歴史的町並み、佐久島における現代アート、山間地域や三河湾の豊かな自然など、魅力ある地域資源を生かした観光振興を図っています。

更に、豊田スタジアムが開催会場の一つとして決定している「ラグビーワールドカップ2019」の開催支援のため、豊田市をはじめとする関係団体とともに「ラグビーワールドカップ2019 愛知・豊田開催支援委員会」を設立し、オール愛知での開催支援活動に取り組んでいます。



山車の上で演じられる文楽（知立まつり）



ラグビーワールドカップ2019
愛知・豊田開催支援委員会

（障害のある人の療育・医療支援、特別支援学校の設置）

1964年に開所した第二青い鳥学園は、老朽化が著しいことに加え、三河地域における重症心身障害児者のための入所施設の不足に対応するため、新たに重症心身障害児者の入所機能を付加し、名称を「三河青い鳥医療療育センター」に改め、2016年4月に新築移転します。

また、安城特別支援学校、三好特別支援学校の過大化解消に向けて、新たな特別支援学校の設置検討を進めています。



三河青い鳥医療療育センター イメージ図

（産業や暮らしを支える基盤整備）

2016年2月に新東名高速道路の浜松いなさJCT～豊田東JCT間が開通したほか、名豊道路の4車線化に向けた整備を進めており、2016年2月には藤井IC～西尾東IC間の4車線化が完了しました。また、知多地区とのアクセス性を高める衣浦大橋の渋滞対策を進めているほか、東西軸となる都市計画道路の名古屋岡崎線や衣浦岡崎線、南北軸となる衣浦豊田道路や西三河南北道路、更には、豊田・岡崎地区研究開発施設用地へのアクセス

道路となる国道 301 号の整備や、東名高速道路上郷サービスエリアに接続する「上郷スマートインターチェンジ」（仮称）の整備を進めています。

また、知立駅付近において、連続立体交差事業が進められており、2027 年度に予定されているリニア開業効果をモノづくり拠点である当地区に波及させるため、名古屋駅からの鉄道による 40 分交通圏の拡大をめざし、名鉄三河線の複線化などによる名古屋駅－豊田市中心部駅間の所要時間の短縮を図っていくこととしています。

更に、都市機能の充実に向けて、岡崎市シビックコア地区整備事業や豊田市駅前通北市街地再開発事業、知立駅周辺土地区画整理事業や、油ヶ淵水辺公園の整備などを進めています。

衣浦港においては、2014 年 3 月に改訂した港湾計画に基づき、後背地の物流・生産活動を支える工業港としての機能強化を図っています。

また、河川・海岸施設の耐震化等や、矢作川水系などの県管理河川のハード対策・ソフト対策を組み合わせた浸水対策を進めるとともに、境川流域では、市町などと連携した総合治水対策を推進しています。



名豊道路
岡崎バイパス西尾東 IC 付近（2015 年 11 月）



知立駅連続立体交差事業の推進
知立駅周辺イメージパース

（山間地域・離島地域の振興）

岡崎市東部や豊田市北東部の三河山間地域においては、高齢化や人口流出が進んでおり、へき地医療対策や生活交通の確保、山里の暮らしや魅力の情報発信などにより、地域外からの移住・定住の促進を図っています。

また、佐久島においては、現代アートを生かした観光振興に加え、へき地医療対策などの生活基盤の確保に取り組んでいます。



三河山間地域の PR キャンペーン
（CBC テレビ「旅MAX」）



佐久島現代アート（「おひるねハウス」）